

## JOFIOSAKA Vol.28

2011年(平成23年)9月30日発行

発行者:大阪府釣りインストラクター連絡機構

本部:大阪府東大阪市中小阪1-5-20 tel06-6729-9485 fax06-6729-9457 編集責任者:萱間修(広報部)



## 自然災害が続くなかで、ささやかに釣りを楽しむ。

来田 仁成 (大阪府釣りインストラクター連絡機構代表)

3月の巨大津波以後、自然のもたらす巨大な力を思い知りましたが、こんどは台風12号の大雨と土砂くずれで慣れ親しんだ紀伊半島の溪に大きな被害ができました。

土砂堤防ですっかり有名になった五条市大塔町の赤谷など、毎年アマゴの解禁日にでかけていった懐かしい場所です。3月1日の夜明け前、天辻トンネルを越し、下り坂にきかかると、坂本まで続く曲がりくねった長い坂の点々と赤い尾灯だけが続きます。すべて乗用車であることからみて、どれもが、十津川水系の溪にアマゴを狙って走る溪流釣り師たちです。舟の川の出合いを過ぎ、川原樋川を遡って南に折れると赤谷キャンプ場です。

そこから先の林道の入り口に鎖が張ってあり、朝5時に漁協員がでてきて外してくれます。

崩落したのはそこから上流へ1キロほど、山全体が崩れ落ち、谷をせき止めてダムを作っているわけです。

災害という視点を少しはずして、長い年月の間の山に雨が降り、その雨が砂を、岩を流し地盤を削り、次第に深い渓谷を作り上げていった過去のプロセスからみれば、ごく当たり前のなんでもない営みのひとつにすぎないわけですが、それに、たとえば広葉樹林から針葉樹林へ植林や林道の建設が、拍車をかけたともいえるでしょう。役場に電話が繋がって、谷の様子を聞きました。「崩落したところを通り抜ける道がないし、だれも谷に入れないから禁漁区と同じですわ。2~3年放っておいたら、アマゴが増えますやろ」

もっともな話だ。こんなことでもなければ、自然の中で生き物たちが回復する余地がないのかもしれない。

一方で大阪湾の西宮周辺では、9月20、21日に青潮が発生しました。他の場所でも貧酸素の潮が湧昇してイガイやカキの類が大量に剥落しました。この秋から冬にかけては、オキアミ餌のフカセ釣りが中心になるであろうことは歴然としています。釣りとしての面白みという面から見てかなり上位

にランクされる釣方ですが、ただ、撒き餌を大量に撒きすぎると波止まわりの貧酸素状態を助長します。ほどほどに、限度を心得てという、本来すべての釣り人が持っているはずの美意識を、機会あるごとに想起してほしいものです。

大阪湾の魚たちにとっての朗報です。9月23日長居の自然史博物館で開かれた「大阪湾見守りネットの生き物一斉調査報告会」で聞いた話です。

シラスのきんちゃく網が、年に何回か一週間程度の休漁期間を設定することを決めたそうです。巾着網にシラスにまじって、さまざまな魚の稚魚、タコ、イカの稚魚、タツノオトシゴそれにエビ、カニの幼生であるゾエアなどが入っています。大阪湾の魚を育てる大切な要素です。

しかし、シラスの巾着網業者にとってこうした余計な生き物は商品にするうえで邪魔なものでしかありません。それならいっそのこと、こうしたカタクチイワシの幼魚以外のものが多い時期に、休漁にしたほうが、大阪湾の資源全体をみたとときに、有利になるのではないか、この期間中にも、シラスは湾内に入ります、これを追ってマダイや、タチウオやさまざまな魚が入り込み、大きく育ちます。一挙両得のこの休漁の合意が、ようやく成立したわけです。

釣り公園の航泊禁止のブイすれすれに網を引く情景に、何度かやりきれない思いをした人も多いはずですが。ようやく一歩だけ前に進んだことを報告しておきます。



## 第7回大阪湾フォーラム (H23-2/26)

2月26日、大阪湾見守りネット主催「第7回ほっとたらあかんやん! 大阪湾フォーラム(人工島から考える陸と海のつながり)」に参加しました。

第1部 10:00~12:00「りんくう公園エコツアー」。関空の陸側、りんくう公園とマーブルビーチを、大塚先生と鍋島先生の解説で見て歩きました(昔の魚が豊かな泉南の浜を知っている釣り人は、溜息をつくばかりでしたが…)。

第2部 12:30~14:30「かんくう探検」では、特別に関空第2期埋立地の見学ツアーを用意していただきましたが、シンポジウム会場となるエアロプラザでは「ポスターセッション」が行なわれ、私たちは「釣り人による大阪湾の水質調査」のポスター展示し、集まった各団体ともお話しする機会をいただきました。

第3部 14:30~17:20「大阪湾フォーラム」では、最初に大阪湾での活動する団体の紹介があり、15:00から記念講演「スナメリからのメッセージ」、その他各地の活動が紹介されました。人工的な構造物と自然環境保全は調和がとれているのかどうか、様々な取り組みが

紹介されましたが、時間的な余裕がなくて意見交換を十分できなかったところは残念でした。次回大阪湾フォーラムで「続き」をやりたいと思います。



## 大阪が生んだ「開高健展」(H23-2/11-20)

2月11日~20日の間、大阪ナンバパークス・7Fパークスホールにて。開高健氏は(1930~1989)大阪市生まれ。大阪府立天王寺高校、大阪高校、大阪市立大学を卒業。トリスウイスキーの名コピーを作り、「裸の王様」で芥川賞受賞。ベトナム戦争に従軍のあと、釣りを専らにして名著を残す。大阪のジャパニルアーアングラーズのメンバーとの交友も深く、キャッチ&リリースの提唱者の一人、また長良川河口堰反対運動など環境を守る活動にも参画した。

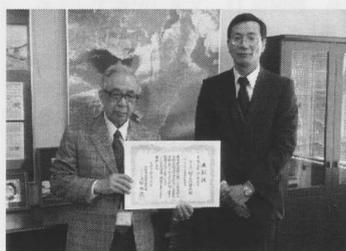
今回は生誕80年を記念して開催。茅ヶ崎にある開高健記念会所蔵の資料を主に展示、釣り関係ではオーパ・オーパ取材に際してのロッ



ド、リールなど愛用のタックルのほか、大阪、名古屋に残されている未公開資料も展示。同展開催にあたり「大阪で生まれた開高健」(難波利三、藤本義一、柳原良平など10人共著=たる出版)が刊行され、釣り関係では来田仁成が「釣り師開高健」について、幸田露伴、井伏鱒二に続く文人釣聖としての位置づけなどを語っています。

## 釣り人による水質調査が「魚庭の海特別賞」を受賞(H23-4/19)

昨年末、府庁合同庁舎にて平成22年度「魚庭(なにわ)の海賞」の選考会が行なわれ、私たち JOFI 大阪が中心となり釣り文化協会が5年間にわたって取り組んできた「釣り人による水質調査」について説明を行ないました。その後、審査会を経て、2月中旬に内示を受けていたのですが、表彰式が大震災により延期となり、個別表彰と



いう形で4月19日、国土交通省近畿地方整備局企画部広域企画課にて「魚庭の海特別賞」の表彰状を頂戴しました。市民による環境モニタリング活動として独自の工夫と継続活動を評価していただきまし

### 第2回「魚庭の海」賞 受賞活動の紹介

『魚庭の海』賞では、大阪湾に隣接する環境保全活動に取り組む団体を公募し、その中から特に優れた活動をされている方を表彰しています。この賞を通じて大阪湾再生を目指す活動を1人でも多くの方に知っていただきたいと考えています。

**大賞** 『魚庭の海』大賞  
NPO法人 海浜の自然環境を守る会

甲子園浜の環境保全  
数少なくなった自然海岸(甲子園浜)の環境を保全するため、津波や高潮対策、環境学習などの活動を長く行っています。また、甲子園浜の埋立跡画から市民の活動を通じて残したことを誇りに、子供を始め多くの人に自然海岸の大切さを伝えながら、現在は、埋立跡の草花を消滅させるように英語メッセージの予約にも繋がる新たな取組にも挑戦しています。

**特別賞** 『魚庭の海』特別賞  
NPO法人 釣り文化協会

釣り人による大阪湾の水質調査  
釣り人が大阪湾沿岸部の水質調査を行い、生物の生態に深く関与する活動の様子をホームページで公表する活動を行っています。本来は個人の趣味である釣りの延長線上で楽しみながら水質調査を行うという取組のユニークさや、独自に工夫した調査器具を用いて水質調査を行うなど、アイディアに富んだ取組です。

た。ご参加いただきました皆さんの成果であり、たいへん名誉なことと受け止めております。ご指導いただいた先生方と調査員の皆さんにお礼申し上げます。

**報告3****大阪湾の水質調査報告会 (H23-3/27)**

3月27日、定時総会の後、同会場にて「平成22年度水質調査報告会」を開催しました。各地区の調査員より昨年度調査の所感を述べた後、その全体像を、1年間の釣果の移り変わりのデータと合わせて、来田代表が報告しました。また、私たちの報告を受けて大阪府農林水産部藤林課長から「昨年の大阪湾の水質傾向と主要な水産資源について」ご説明をいただき、勉強をすることができました。なお「平成22年度水質調査報告書」はJOFI広報部にありますので、ご入用の方はお申し出下さい。

**報告4****JOFI大阪第15回定時総会 (H23-3/27)**

第15回定時総会は、3月27日、エルおおさか（大阪市立労働センター）にて開催。東日本大震災の亡くなられた方、また昨年亡くなられたJOFI大阪の仲間への黙祷から始まり、代表挨拶のあと、ご来賓の大阪府環境農林水産部水産課藤林栄蔵氏、JOFI兵庫酒井信由喜氏より挨拶を頂きました。

議長に副代表である山崎勝彦を選出し、第一号議案から第四号議案まで、各担当部長が説明し、各号全員一致で承認。収支予算計画案では初めて「親睦釣り大会」費用を計上しました。また、役員に関する件については改選時期ではないため現役員のまま報告事項とし、最後に満場一致の拍手で終了しました。（報告：事務局 物部）

**報告5****石川大清掃に参加 (H23-3/6)**

3月6日、梅の花満開の石川河川敷。「石川を美しくする市民運動協議会」が主催する第28回目の大掃除が行なわれました。親子連れ、町内会、婦人会、スポーツ少年団、一般事業所等々に、私たちJOFI大阪メンバーも参加。支給されたビニール袋を持ち、ゴミ集めを行いました。古タイヤ、自転車のハンドル、ペットボトル、発泡スチロー

ル、プラスチック片など種々雑多なゴミが集積場所に集められ、一時間ほどで作業は終了。昨年よりも中学、高校生の参加者が多く、若い人たちの環境マナーの高まりを感じました。（報告：栗林）

**報告6****淀川クリーンアップ大作戦に参加 (H23-8/23)**

8月23日、国土交通省淀川治水事務所主催「淀川クリーンアップ大作戦」に参加しました。淀川ワンドの周辺の水辺を清掃するのが主な目的で、清掃は1時間ほどで済みましたが、その後で淀川の歴史、治水工事の目的、淀川に生息している生物と外来生物についてなど、興味深い講話があり、良い勉強ができました。

**報告7****南港魚つり園・日曜日巡回釣り指導 (通年)**

JOFI大阪が大阪南港魚つり園にて釣り巡回指導活動を始めて6年目に入りました。この場所で活動するインストラクター数は年間延べ230～250人。対象者は年間約1万人。インストラクター活動の拠点ができただけで、会員同士の研修会などボランティア活動の柱が完成し、JOFI大阪の大きな力となっています。これからご協力を頂きますようよろしくお願い致します。一般の方に釣りや釣りマナーを指導させていただくのは、なかなか難しいものがありますが、この場所での活動を通して、先輩や来場者から学ぶところもあると思いますので、所属するすべてのインストラクターの皆さんにご参加をお願いしています。参加申し込みはJOFI大阪事業部長まで。



# G.W. スペシャル活きエビによる探り釣り教室、チャリティー釣具バザー、南港春の釣り大会 (H23-5/3~5)

大阪南港魚つり園における今年のゴールデンウィーク3日間は、大津波で甚大な被害を被った漁業者を支援するためのチャリティーイベントとして開催。インストラクターは延べ30名で、連日100名を超える来園者を対象として、釣れない時期の難しい釣り指導から、まったくの初心者やトラブルを起こしそうなお客さんまで対応していただき、お疲れさまでした。東北の大震災の直後に、「釣り人の良心」を集めることができました。ご参加いただきました全てのお客様にお礼申し上げます。



5月3~4日「活きエビによる探り釣り教室」は、1日30組限定で釣り竿と仕掛け、エサをお貸して釣り方を手ほどきします。初めて釣りをするという方もすぐに慣れて、アイナメやガシラなどを釣り上げていました。参加料はお安く設定しましたが、全額を大震災の漁業募金にすることをアナウンスすると、快く千円札を入れてくれる方が多数あり、チャリティー釣具バザーの売上げと合わせて、3日間で89,151円が集まりました。全額をJF全漁連の義援募金「がんばれ漁業募金」に寄付させていただきました。バザーのために遠



くから釣具を持ってきていただいた方にもお礼申し上げます。

5月5日は「こどもの日釣り大会」を開催。大会の趣旨は「釣りで仲良くなろう!」です。親子、兄弟、友達同士でペアを組んで魚を2匹検量に出してもらいました。1位はガシラ2匹で33.8cmの長尾さんペア。2位は31.5cm北本石井さんペア。3位は27.9cmの菱岡さんペアで、2匹はここまで。あとは全員1匹で、なかなか釣り難い日でしたが、皆さん、さわやかな5月の風に包まれて、楽し

い時間を過ごされていたと思います。

なお、魚つり園は昨年末の嵐で施設が壊れ、ほぼ半分が閉園されていましたが、G.W.の前に、数カ所の工事中(立入禁止)を除き、一応全面オープンされました。





## 報告9 姫路市立遊漁センター・こどもの日釣り教室&ミニ釣り大会 (H23-5/5)

JOFI 大阪が活動する「大阪南港魚つり園」と連動して、昨年度から「姫路市立遊漁センター」でも釣りインストラクターが活躍しています。5月5日こどもの日には、「こどもの日釣り教室&ミニ釣り大会」を開催。ミニ大会は、お父さんやお母さんとのペアでも、お友達とでも参加できるペア大会です。

当日の水温は 14℃。例年よりも水温が低く、魚の数や種類も少ないようでしたが、この時期の気持ちの良い風に吹かれてほぼ満員になりました。フグが釣れた！と歓声をあげる女の子や、アイナメの新子を数釣って自慢する男の子。お母さんが釣りの手本を見せたり、検量を終わった魚をそつと海に返すなど、ほほえましい光景がありました。こども達が釣りを楽しむ、そして自然に親しみ、親



子のふれあいを感じる…。そんなすばらしい一日でした。次回は秋に「こども釣りフェスティバル」を開催する予定です。(報告：吉田実寛)



## 報告10 大阪市立弘済みらい園・のぞみ園釣り教室 (H23年春)

みらい園・のぞみ園恒例の春の釣り教室を4月24日(座学)と5月8日(実釣)の2日に分けて開催しました。今回の目的は、子供たちとブルーギルを釣り、食べることで、外来魚や淀川、ワンドを知り、学んでもらいます。

座学では、インストラクター8名が、一般的な釣りの知識、マナーと安全、淀川及びワンドの歴史、ワンドの環境と自然、外来魚とブルーギル、仕掛け作りの実習、実際の魚を持ち込んでの観察など講習。小学校低学年から高校生まで幅広い年齢層で、長時間にわたりましたが、楽しく学びました。講師の川村氏のお話、「釣って殺生、食べて往生」「魚に感謝」という言葉のもつ意味の説明にも熱心に聞いてくれました。

実釣では、インストラクター16名が早朝から集合し、テント設営やブルーギルを食べるための準備をしました。子供たちが到着し、注意事項等の説明後、前回作成した仕掛けを取り付けます。餌はさし虫とミミズ。餌を持つのが苦手な子もいましたが、どうにか全員で釣り開始。しばらくするとあちらこちらから歓声が上がりました。

テントの下では美味しくブルーギルを食べてもらおうと、ウロコを取ったり、おろしたり、天ぷらの準備で大忙し。そのうちに子供たちが押しかけ、ムシャムシャ、パクパク。100匹以上のブルーギルをみんなで食べました。私たちが試食しましたが、臭みもないし、思ったより美味です。最高の一日を楽しみました。次回、秋のハゼ釣り教室で再会を約束して終了しました。(報告：田淵)



はじめるブルーギルは、外来魚の一種で、日本に生息する魚ではない。その繁殖力は非常に強く、淀川やワンドに生息する魚を捕食し、生態系を壊す恐れがある。そのため、ブルーギルを釣って食べてもらうことが、外来魚の駆除の一環として行われている。今回の釣り教室では、子供たちがブルーギルを釣って食べてもらうことで、外来魚の危険性を知ってもらい、自然環境を大切にする意識を育てたい。

ブルーギルは、外来魚の一種で、日本に生息する魚ではない。その繁殖力は非常に強く、淀川やワンドに生息する魚を捕食し、生態系を壊す恐れがある。そのため、ブルーギルを釣って食べてもらうことが、外来魚の駆除の一環として行われている。今回の釣り教室では、子供たちがブルーギルを釣って食べてもらうことで、外来魚の危険性を知ってもらい、自然環境を大切にする意識を育てたい。

ブルーギルは、外来魚の一種で、日本に生息する魚ではない。その繁殖力は非常に強く、淀川やワンドに生息する魚を捕食し、生態系を壊す恐れがある。そのため、ブルーギルを釣って食べてもらうことが、外来魚の駆除の一環として行われている。今回の釣り教室では、子供たちがブルーギルを釣って食べてもらうことで、外来魚の危険性を知ってもらい、自然環境を大切にする意識を育てたい。

## 報告11 第4回大阪湾生き物一斉調査 (H23-6/5)

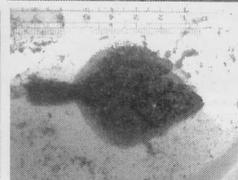
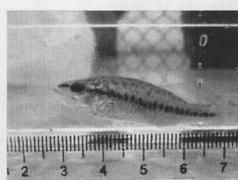
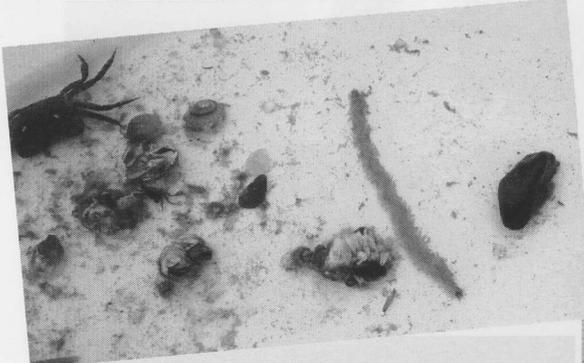
6月5日、第4回大阪湾生き物一斉調査を堺2区生物共生型護岸で開催。主催は大阪湾環境再生連絡会。現地担当として、今回は釣り文化協会と大阪自然環境保全協会が共同実施をしました。参加者はスタッフも合わせて全員で44人。生物の専門家として山西先生、石崎先生、木邑先生に来ていただきました。

この実験施設ができたのが一昨年の12月で、まだ1年半しか経っていないのですが、1年前と比べると、生物層がかなり変わりました。フジツボは壁にびっしりとつきまじり、コウロエンカワヒバリガイも大きくなり、ヨコエビが増え、フナムシも姿を現しました。カレイ、スズキ、ボラ、ギンポの幼魚に混じって、ブラックバスやブルーギルの幼魚が見つかりました。大きなオタマジャクシやミシシippアカミミガメも。タカノケフサイソガニやユビナガホンヤドカリも増えたように思います。スジエビ、エビジャコ、ゴカイに、貝では

ヤマトシジミ、ウズラタマキビもみつけることができました。

また、このように、エサとなる生物が増えたからなのかどうか分かりませんが、釣りの調査をやってみましたところ、45～57cmのスズキ、42cmのチヌ、37～42cmのキビレチヌなど、けっこう釣れました。湾奥の岸壁ではありますが、生き物の力（食物サイクル）が働いています。

ちなみに当日の水質調査の結果は、気温：24℃／風向：西～西北西／水温：表面22℃、底17℃(水深4m)／水色：緑っぽい／透明度：2.2m／塩分濃度：表面4‰、底29.5‰(表面はほとんど真水で、底に濃い塩水の層があることがわかります)／水素イオン濃度 pH：8.5／溶存酸素量 DO：7mg/lで、pH、DOともに問題なしでした。詳しい発表は9月23日の結果発表会で行ないます。



## 報告12 泉南里海公園の一斉調査に参加して (H23-6/4)

6月4日、泉南里海公園で行なわれた大阪湾生き物一斉調査に参加しました。最初に行事説明があり、地引き網での調査を全員で行なうことや危険な魚、津波に関する知識などを聞きました。私たちの出番である水質調査も全員の前で行ないました。その後ようやく、鍋島靖信先生の指導により、全員で生き物調査に入りました。子供たちは生き物を捕まえては大きな歓声を上げていました。調査を終

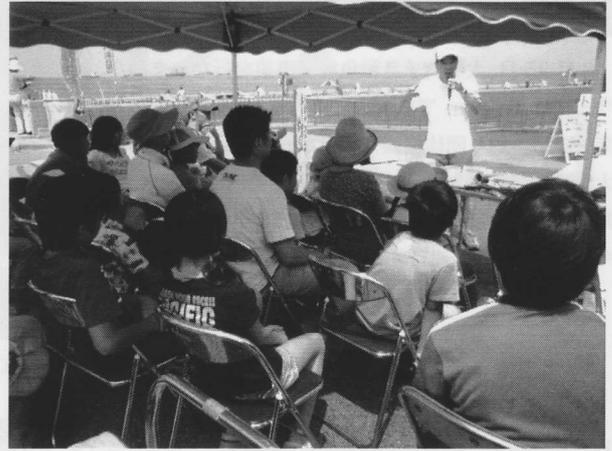
了し、変わった生物の話も興味深かったのですが、子供たちの多彩な質問に、先生が詳しく解りやすい説明されていたのが印象的でした。(報告：物部)



## 報告13 夏休みジュニア水質調査教室 (H23-7/24)

夏休みに入ったばかりの日曜日、毎年のことですが、大阪南港魚つり園には小学生連れのファミリーがたくさんお見えになります。大阪湾の自然と環境を知ってもらいたい機会ですから、「ジュニア水質調査教室」を釣り文化協会主催で開催しました。9時半頃に場内アナウンスで呼びかけると、21名が売店前のテントに集まりました。来園者の1割ほどが来てくれましたから盛況です。お子さんよりも保護者のほうが興味を持った、という方も多かったようです。

大阪湾で釣れる魚の話、海の色と魚の栄養となるプランクトンの関係、風向きによって魚の食いが変わったりする理由、表層と底層の水質の違いなど。釣りの面白さと水質調査の楽しさをお話しました。その後で、みんなで実際に水質測定を行ないました。測定後にもう一度テントに戻ってお話すると、参加した子供たちから様々な質問が出てきました。魚の色はどれぐらいの数があるのか等々、



釣ることだけではなく理料的な興味を持ってくれたので良かったと思います。測定データは後でコピーをしてお渡ししましたが、夏休みの自由研究の課題に取り上げてもらえれば嬉しいです。

## 報告14 水質調査員研修会 (H23-8/20)

8月20日、大阪南港魚つり園 NPO 事務所にて、講師に鍋島靖信先生にお願いして、平成23年度の「水質調査員研修会」を釣り文化協会主催で開催しました。この日は朝から魚つり園のチヌ放流が行なわれましたので、鍋島先生の講習も、チヌの話（大阪ではチヌのほうがマダイよりも珍重されたことなど）から始まり、ガッチョ、マコガレイなどの大阪湾を代表していた魚が近年漁獲量が非常に少なくなったこと、その原因と考えられることなど、大阪湾で釣れる魚と水質および自然環境の関連性について、釣り人を対象としたセミナーとしていただき、たいへん面白いお話でした。今年はこの水質調査が魚庭の海特別賞という大きな賞をいただいた年ですが、



千里の道も一歩からです。今年新たに調査員になられた3名の方と一緒にまた一歩ずつ進みますのでよろしくお願いたします。

## 報告15 堺2区生物共生型護岸の愛称決定 (H23-9/11)

9月11日、堺2区の実験施設にて、大阪自然環境保全協会の自然観察会がありましたので、来田代表以下会員4人で参加しました。

観察会の前に堺2区「愛称募集」の発表があり、13件の応募の中から大阪市・竹中さんご家族が応募した「友海（ゆかい）ビーチ」に決まりました。

この場所はフェンスで囲まれた立入禁止の場所ですが、「生き物一斉調査」でお分かりのように、いろんな生物がいて、釣りにも適した水辺です。浜や港などの水辺は、本来国民に供されるべきですが、港湾管理者



と利用者の話し合いは、行政手続法ができるまでは行なわれず、管理者のやりやすいように決められていたのですが、このような「自然観察会」や「釣りの調査」を何回も申請して、立入禁止場所のフェンスを開けることが、今後は大事になります。市民団体が手を携えて実績を作ろうとしている、その意味をご理解下さい。

またこの場所は大和川尻にありますので、ハゼ釣りやコッパガレイ釣りなど、ファミリーフィッシングが楽しめるかどうか、今回下見をしました。何年か先、大和川尻に釣り人の歓声が広がることを夢に見ています。

## 報告16 「港湾の開発、利用及び保全 (中略) に関する基本方針」意見募集 (H23-6/22~7/11)

国土交通省では、6月22~28日と7月5~11日の2回、「港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針」の変更案に対する意見募集を実施しました。災害に強い港湾施設、世界の港湾との関連性、市民の声を反映した港湾施設の利用と振興を柱とした変更案です。資料はPDFファイルで65頁に渡りますが、改正箇所が比較明示され、分かりやすい内容です。釣りに関する箇

所では、1編4章⑥港湾空間の適正な管理の項で、「さらに、防波堤の釣り利用等の多様なニーズを踏まえ、安全性の確保に努めた上で、港湾施設の有効利用の観点から適正な管理への取組みを進める。」と、「防波堤」と「釣り利用」という言葉がはじめて書き込まれました。パブリックコメントは99件の意見があり、9月12日に結果発表されていますので、国土交通省のホームページにてご確認ください。

## 大阪湾のチヌ放流 (H23-8/25)

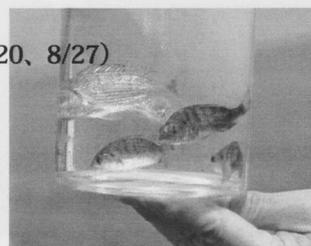
8月25日、大阪湾チヌ稚魚放流事業を行いました。サイズは5~6cmで放流数量は約28,000尾。この事業は全日本釣り団体協議会、日本釣振興会大阪府支部、大阪府漁業振興基金、大阪府釣船業協同組合、大阪釣具協同組合などの協力により、昭和58年より実施され、今回で28年目(通算30回)になります。



## つり公園でもチヌ稚魚放流 (H23-8/20、8/27)

魚つり園の指定管理者であるハウスビルシステム株式会社が、チヌ稚魚放流事業を実施しました。8月20日に「大阪南港魚つり園」にチヌ稚魚2000尾、27日に「尼崎市立魚つり公園」にチヌ稚魚2000尾を放流しました。南港魚つり園では私たちもお手伝いをして、来園された方の中から、小学生以下の方に放流をしてもらいました。

来田代表が大阪湾のチヌ放流の歴史について、大阪府栽培漁業センターの森所長がチヌの生態と特徴について解説をしていただいたので、来園された方にはたいへん有意義な体験学習ができたと思います。放流の時には「大きくなって帰って来てや〜!」とみんなで声をかけました。



## 生き物一斉調査結果発表会 (H23-9/23)

9月23日、長居公園内の大阪自然史博物館にて「第4回大阪湾生き物一斉調査結果発表会」を開催。主催は大阪湾再生連絡会生き物一斉調査プログラム実行委員会。今回の調査は6月4日を主催日として、大阪湾の18箇所、18団体931人が参加して実施。各団体の調査の様子や結果についての口頭発表のほか、統一テーマ「フナムシ」について大阪湾海岸生物研究会・山西良平代表から結果発表。また、「大阪湾の水環境と海草類の多様性」と題して神戸大学内海域環境教育研究センター・河合浩史先生の記念講演がありました。私たちは堺2区生物共生型護岸実験施設での調査結果を報告しました。



## この秋のイベントごあんない

### <お知らせ> 全国アマモサミット 2011

11月20日(日)、大阪市港区・海遊館(海遊館ホール)にて開催。主催は同実行委員会、アマモ場再生活動を行う全国の市民団体や漁業組合、企業、行政機関が後援や協力・協賛し、大阪湾見守りネット、釣り文化協会も協力団体として参加します。11時開場、休憩を3回挟んで17時頃終了予定。入場無料。

主なプログラムは、特別講演「豊かな藻場を取り戻せ!磯焼け対策の紹介」桑原久美氏、特別講演「アマモ場再生と研究者・NPO・市民の関わり」古川恵太氏、一般講演「由良湾のアマモ場の生き物たち」花野晃一氏、「小学校における教育・学習としてのアマモ」前田ゆきみ氏、「大阪湾を魚庭の海に戻そう」赤井重雄氏、「伊勢湾事業の取り組み」国分秀樹氏、「博多湾におけるアマモ場再生」甲斐由将氏、他。

環境省や国土交通省が自然環境の再生に取り組んでいますが、水産関係者にとっても資源確保のための環境再生事業は重要視されており、釣り人としても放っておけない課題です。この機会に、全国に広がるアマモ場再生の取り組みを学び、今後の釣り人活動の参考にいただければと思います。参加申込は11/10までにJOFI大阪広報部または釣り文化協会事務局まで。

